

二〇一七年度大槻能楽堂自主公演能
能の魅力を探るシリーズ

和能 歌と

文武に名を挙げた頼政だが、以仁王を奉じた
合戦で平家に敗れ、『埋れ木の…』辞世を残し
無念の自害

能
頼政
よりまさ

お話 村上 湛

梅若万三郎

SAT
22



遊女が追い出されたのも、再会するのも扇ゆえ、
和漢朗詠集を取り混ぜた情緒溢れる歌の数々

狂言
子の日
ねのひ

お話 村瀬 和子

茂山千五郎

能
班女
はんじょ

上野 雄三



19
SAT

名月の夜の琵琶湖畔。
名歌は漢詩と共に繰り広げられる

能
三井寺
みいでら

お話 高橋 睦郎

浅見 真州

23 SAT



<初めてご覧になる方にもわかりやすい解説を、また英文解説もご用意しています>



文化庁文化芸術振興費補助金
(舞台芸術創造活動活性化事業)

無形文化遺産
NOH KYOGEN
能楽

大槻能楽堂

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7

チケット・お問い合わせは TEL.06-6761-8055 <http://www.noh-kyogen.com>

©主催:公益財団法人大槻能楽堂 ©後援:大阪府/大阪市/大阪府教育委員会/大阪市教育委員会/公益財団法人関西・大阪21世紀協会



能と和歌

第631回 7月22日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 文武に名を挙げた頼政だが、以仁王を奉じた合戦で平家に敗れ、『埋れ木の…』辞世を残し無念の自害

村上 湛

休憩15分

能 頼 政 よりまさ

シテ 前・尉 梅若万三郎
後・源三位頼政

ワキ 旅僧 福王茂十郎

間狂言 里人 善竹 隆司

笛 左 鴻 雅義

小鼓 久田 舜一郎

大鼓 河村 大

後見 赤松 禎友

青木 健一

地謡 大槻 文藏

齊藤 信隆

上田 拓司

上野 雄三

山本 正人

武富 康之

齊藤 信輔

大槻 裕一

源頼政は、平家全盛の世にあっても従三位まで出世したが、治承4年、高倉宮（以仁王）を奉じて平家に反旗をひるがえす。しかし情勢に利なく、宇治橋での合戦に敗れた。平等院に残る扇形の芝は、頼政が、自身を埋もれ木にたとえた辞世の歌を詠み自害した跡だった——。初夏の宇治を訪れて旅寝する僧の枕辺に、武装した出家姿の頼政の亡霊が現れ、奮戦のありさまと老武者の無念を語る。

瀬音高き宇治川の味わい深い初夏の風景の中で、源三位頼政の栄光と挫折の生涯が語られる。姿優艶にしてその芸強靱たる名手・梅若万三郎の《頼政》は見逃せない。

入場料金のご案内 ※入場券は各公演の2ヶ月前の同日付から発売

自由席 ●前売：一般 5,400円・学生 2,700円
座席指定可 ●当日：一般 5,900円・学生 3,100円

ワンコインでマイシート 500円
追加料金で自由席を座席指定にアップグレード
U-25 25歳以下 (U-25) 当日立ち見券 800円

※自由席券・当日券でご入場の場合は、立ち見でのご案内となる場合もございます。ご了承ください。※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承ください。

入場券発売所

大槻能楽堂事務局・大槻能楽堂ホームページ

ローソンチケット

TEL 0570-084-005

URL l-tike.com

Lコード:56490

交通 ○地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車、⑩号出口を出て南へ約300m。(⑪号出口にエレベーター有り)
又は谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車、⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーター有り)
○市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車。 ※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車。

第633回 8月19日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 遊女が追い出されたのも、再会するのも扇ゆえ、和漢朗詠集を取り混ぜた情緒溢れる歌の数々

村瀬 和子

狂言 子の日 ねのひ

シテ 公家 茂山千五郎

アド 女 茂山 茂

後見 島田 洋海

正月初めの子(ね)の日に長寿を願う行事とて、公家が野へ出て謡い舞いながら小松を引き抜いていると、小袖を被いた女が現れた。公家は、女と相生の契り(夫婦の縁)を結ぼうと和歌の上の句で呼びかける。女が下の句で応じたので、近づいて顔を覗いた途端、慌て出す——。

9世千五郎の弟子だった冷泉為理の作。狂言らしい滑稽な筋立てが、「歌の家」の当主の手に掛かればかくも雅な趣になる。昨年、14世を襲名した千五郎と茂の兄弟共演。

休憩15分

能 班 女 はんじょ

シテ 花子 上野 雄三

ワキ 吉田少将 福王 知登

ワキツレ 従者 喜多 雅人

〃 是川 正彦

間狂言 野上宿の長 松本 薫

笛 貞光 義明

小鼓 吉阪 一郎

大鼓 辻 芳昭

後見 上野 朝義

武富 康之

大槻 文藏

齊藤 信隆

赤松 禎友

上田 拓司

山本 正人

長山 耕三

水田 雄悟

上野 雄介

美濃国野上の宿の遊女・花子は、都から来た吉田少将と契りを結び、その証しに互いの扇を交換した。少将が東国へ旅立った後、扇を眺め暮らす花子のことを、漢の帝の寵愛を失った我が身を秋の扇にたとえた班婕妤的故事から、人々は班女と呼んだ。部屋から出て来なくなった花子は、宿を追放されてしまう。やがて、都・下鴨社の糺の森に狂女となって現れた花子は、せつない恋心を語り舞う——。

扇をキーワードにして朗詠や早歌をちりばめながら、一途な恋が成就する物語を濃やかに綴る名曲。端正な姿に秘められた情念を感じさせる上野雄三に似つかわしい。

第635回 9月23日(土) 14:00開演 13:00開場

お話 名月の夜の琵琶湖畔。
名歌は漢詩と共に繰り返しられる

高橋 睦郎

休憩15分

能 三井寺 みいでら

シテ 千満の母 浅見 真州

子方 千満丸 長山 芽生

ワキ 園城寺の住職 福王 茂十郎

ワキツレ 従僧 福王 知登

〃 喜多 雅人

間狂言 清水寺門前の者 丸石 やすし

園城寺の能力 茂山 あきら

笛 赤井 啓三

小鼓 荒木 賀光

大鼓 河村 大

後見 大槻 文藏

赤松 禎友

浅井 文義

齊藤 信隆

上田 拓司

上野 雄三

山本 正人

寺澤 幸祐

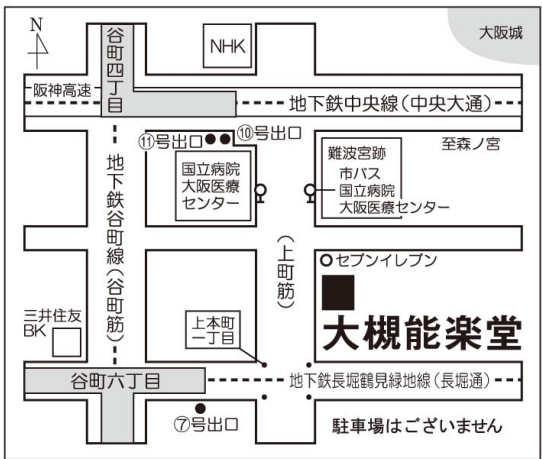
武富 康之

長山 耕三

我が子を人買い商人にさらわれた女は、清水の観音の夢の告げに従って、急ぎ近江へ向かった。中秋の夜、三井寺では、住僧たちが一人の少年を伴って月見をしていた。そこへ物狂いとなった女が現れる。女は、鐘の音に誘われて撞楼に近づき、鐘を撞いては詩歌を口ずさんで戯れ、月光に照らされて澄みわたる琵琶湖を眺めて過ごす。その様子を見ていた少年は、物狂いの女が母親だと気づく——。

目にも耳にも美しい十五夜の三井寺の情景と中世の人々の信仰の姿が心に響く母子再会の物語。情熱と知性の人気役者・浅見真州に地頭は同じく鉄仙会の浅井文義。

文・石淵文恵



※本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は、著作権・肖像権に触れますので遠慮いただきますようお願いいたします。

Unauthorized recording or photography of the performances is prohibited and a violation of copyright. (Thank you for understanding and we hope you will have a good time.)